



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行

市議団
ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

「子育て応援手当」支給停止 新政権が表明

市の回覧で「子育て応援特別手当」支給の案内が各常会をまわりましたが、10月14日、新政権の長妻厚労相が支給を停止する意向を明らかにしました。

この手当は前・麻生政権が補正予算で成立させた施策で、今年度中に3才〜小学校就学前までの子どもに3万6千円（1回限り）を支給するというものです。市内の対象者は約1200人、支給総額は4320万円になり、9月市議会での予算を含む補正予算が可

決されています。そうしたなかでの長妻大臣の発言に、市の担当課は「支給に関しての実施要綱まで作成して準備していたが、支給中止が正式に決まれば11月の回覧でその旨を報告したい」と述べています。

同手当については、市民から「どうして支給が就学前までなのか」という疑問の声が担当課に寄せられていました。共産党市議団にも若いお母さんから「あてにしていたのに」がっかり。もう支給されないのですか」という問合せがありました。



雨情記念館で特別展 證城寺の狸囃子

雨情記念館で『證城寺の狸囃子』展が開かれています。昨年の『青い目の人形展』に引き続き、雨情の童謡のテーマにそっての特別展です。会場には、狸にまつわる民話の舞台や、童謡「證城寺の狸囃子」が生まれた千葉県木更津市での祭りの様子などが展示されています。

あわせて童謡のミニコンサートも開かれています。今回は、11月1、8日の各日曜。特別展は11月29日まで、期間中無休。

現在、子育てを支援する施策としては、0〜3才未満は月額1万円、

3才〜小学6年まで月額5千円の「児童手当」が支給され、市の今年度予算でも約3億5700万円が計上されています。この制度も来年度から、民主党がマニフェストで掲げた「子ども手当」に変更する意向が示されています。

新政権の「子ども手当」は、0才〜中学校卒業までが対象とされ、毎月2万6千円が支給（平成22年度は半額の1万3千円、23年度以降は満額）される内容です。市内での対象者は約6200人で、支給額は平成22年度が約10億円、23年度が約20億円になると試算されています。

れています。

この財源として新政権では扶養控除や配偶者控除を廃止するとしています。また、全額を国費とするのか、県・市にも負担を求めるとのかまだ不透明な状況です。日本共産党市議団は「子育て支援を増税との抱き合わせで実施することには賛成できない。今後とも国民運動をつよめて、真の意味で子育てを応援できる制度をめざしたい」と述べています。

新型インフルエンザ（続報）

新型インフルエンザが、市内でも小・中学校を中心に広がっています。学校によつては、すでに学級閉鎖や学年閉鎖が実施されています。これは、季節性インフルエンザよりも早い対策として、1クラスで2人以上の患者が出れば閉鎖となるためです。

日立市内の患者急増をうけて、日立保健所管内では、インフルエンザ地域注意報

が出されました。その勢いが北上してくるのか、市の担当課でも注視しているところです。

19日からは、例年のおり季節性インフルエンザの予防接種が始まります。これには、年齢によつて公費補助があります。

新型インフルエンザの予防接種は、11月から、まず医療従事者からはじまるとされています。その次に、



エノコログサ

(大津港駅ちかく、10/13)

妊婦、基礎疾患のある人、幼児・児童、高齢者などの順序になる予定です。一般者は年明け以降の予定です。接種できる医療機関が決まれば、市でも早急に周知していきたいと思っています。

● 記事の訂正

先々週号の本紙、高萩・北茨城広域工業水道企業団の記事で、「同企業団への両市からの繰入額は2億9470万円、そのうち2億1100万円が北茨城市の負担となっています」と誤りでした。「両市からの繰入額は1億8472万円、そのうち1億3139万円が北茨城市の負担となっています」と訂正します。